

## 令和 5 年度 東京都立東村山高等学校 学校経営報告

校長 富川 麗子

自己評価の基準：【A】 十分達成できた

【B】 おおむね達成できた

【C】 あまり達成できなかった

【D】 まったく達成できなかった

(1) 中期的目標と方策	令和 5 年度の取組と自己評価
<p>【目標】 エンカレッジスクールとしてスタートして、今年度は 14 年目となり、5 年後には、東村山高校創立 60 周年を迎える。「他者（ひと）のために、一歩先の自分へ」をスローガンの下、分かりやすい授業の実践、エンカレッジスクールの特色を生かした教育活動、補習・講習等の充実で生徒の満足度を高め、将来、社会の変化に主体的に対応でき、社会貢献できる生徒を育成する。</p> <p>【方策】</p> <p>(1) 進学応援型エンカレッジスクールとしての指導体制の確立と教育課程の構築。</p> <p>①「基礎学力」、「読解力」、「自ら学ぶ力」、「コミュニケーション能力」、「キャリア設計・社会貢献意識」の 5 つの力の伸長。</p> <p>②特別進学クラスの特性の伸長と一般クラスの内容充実。</p> <p>③授業力向上や個に応じた教育支援等の課題解決のための校内研修の充実及び人材育成。</p> <p>④外部人材を活用した基礎学力の向上。</p> <p>(2) 3 年間を見通したキャリア教育の充実</p> <p>①進路に対する明確な目的意識をもたせるため、第 2・3 学年に特別進学クラスを 1 クラスを編制。</p> <p>②計画的な高大連携・高大接続を目指した進路指導の充実。</p> <p>③多様性を尊重し、希望する進路を実現するための進路指導の一層の充実。</p> <p>(3) 主体性、協調性、責任ある態度を身に付けさせる教育の推進</p> <p>①学校生活の心得を確実に身に付けさせ、地域との連携を深めた教育活動とともに奉仕活動等、社会貢献活動の充実。</p> <p>②多彩な学校行事の推進と対外活動への支援。</p> <p>③ホームルーム、生徒会活動、体育祭、文化祭を通して役割と責任ある集団づくりの推進。</p> <p>④自転車乗車マナー向上・交通ルール遵守を通じて事故ゼロを目指す。</p>	<p>進学応援型エンカレッジスクールとして、中学校まで力を発揮しきれずにいた生徒が、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的な学力を身に付けることを目的として、「30 分授業」や「二人担任制」、「15 種類から選べる体験学習」等、生徒一人一人へのきめ細かな対応の他、「習熟度別・少人数学習」や「朝学習・朝読書」、「進路ガイダンス」等、キャリア教育の充実を図ることに取り組んだ。</p> <p>(1) -①最終年度となる「学びの基盤プロジェクト」及びスキルアップ推進校事業を活用し「読解力」「自ら考える力」等の伸長を図った。</p> <p>②2 年生については、「特別進学クラス」において、成績の向上が顕著であった。</p> <p>③若手教員研修の授業研究への参加及び「学びの基盤プロジェクト」を活用し、研究協議会に参加するなど研修の機会を確保した。</p> <p>④基礎・基本学習個別指導員を数学と英語の授業において活用し、特に下位層の生徒に対してきめ細かな指導を行った。</p> <p>(2) -①今年度より、2 年生から進学希望者を対象とした「特別進学クラス」を編成した。</p> <p>②2 年生全員が、夏季休業中にオープンキャンパスに参加した。</p> <p>③年間 47 回のガイダンスや講演会、模擬授業を実施した。大学、短大、専門学校別のガイダンス等では、上級学校を知り、高校時代に何をしておかなければならないのかを知る機会になった。</p> <p>(3) -①令和 5 年度東京都・東村山市合同総合防災訓練に、夏の防災講習に参加した生徒が参加し「担架搬送」等、様々な役割を果たした。</p> <p>②8 年ぶりに本校グラウンドにおいて体育祭を実施した。また、文化祭については保護者の入場も可として実施した。</p> <p>③生徒の主体性を促しながら、感染症対策の徹底を図りながら学校行事等を行った。</p> <p>④ヘルメットの着用について、パンフレットの配布、修了式等で講話を実施し、着用を促した。</p>

<p>(4) 心と体の健康づくりの推進</p> <p>①部・同好会の活性化及び体力向上と帰属意識の高揚を図る。</p> <p>②継続的な体力向上に向けての取り組みの遂行。</p> <p>③「教育相談の充実」を目指し、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、学校医、関係機関等との連携を図り、中途退学防止を図る。</p> <p>④特別な支援を必要とする生徒へ配慮した基礎的環境整備の充実。</p> <p>(5) 組織的な学校経営と経営企画室の学校経営参画の促進</p> <p>①全教職員の協働体制の構築及び企画・立案を積極的に行い、所属職員の意識向上を図る。</p> <p>②企画調整会議を軸とした学校経営・全教職員の協働体制の構築。</p> <p>③学校運営連絡協議会による学校関係者評価に基づいた、学校経営の改善。</p> <p>④予算編成と施設・設備の整備の充実。</p> <p>⑤「働き方改革」を推進し、育児中の職員のキャリア形成の促進と介護・仕事の両立支援を図る。</p> <p>⑥本校の特色をPRするための広報活動の充実。</p>	<p>(4) -①グラウンドが完成し、グラウンド使用の部活動においては、これまで以上に充実した活動へと結び付いている。</p> <p>②ロードレース大会は、天候不良で中止となったが、大会に向けて体育の授業でクーパー走を取入れ、練習を積み重ねることの重要性などを学んだ。</p> <p>③SC・YSWとの打ち合わせを毎月、また教育相談委員会を学期ごとに開催し、課題の共有を図った。</p> <p>④コミュニケーション・アシスト講座に生徒が参加した。</p> <p>(5) -①年度当初の組織目標設定、学期毎の取り組み及び課題の整理を全分掌・学年・教科で行い、進捗状況を把握することが出来た。</p> <p>②企画調整会議を時間割中に設定し、毎週実施する体制へと整えた。</p> <p>③学校評価アンケートの教職員の回答者は昨年度に引き続き100%（一昨年度93%）であった。</p> <p>④執行計画に基づいた適切な執行管理を行った。</p> <p>⑤「子育て」「介護」等について理解と相互支援のある環境となった。</p> <p>⑥学校案内パンフレットについて、昨年度の内容を精査し、エンカレッジスクールの特色を分かりやすく掲載した。</p> <p>【自己評価 B】</p>
<p>(2) 本年度の教育活動の取組内容</p>	<p>自己評価</p>
<p>目標1：「基礎学力を付ける授業」で生徒を成長させる</p> <p>目標2：規律やルール、適正な行動が取れる生徒の育成</p> <p>目標3：地域から期待され、中学生、その保護者、教育関係者から「選ばれる東村山高等学校」</p> <p><b>重点事項</b></p> <p>1 授業の充実</p> <p>2 落ち着いた学校生活・教育相談の充実</p> <p>3 応募者数の確実な確保</p> <p>(1) 教育課程・学習指導</p> <p>①基礎・基本の定着と「読解力」「自ら学ぶ力」を身に付ける。</p> <p>ア 「学びの基盤」プロジェクトによるプログラム検証。</p> <p>イ 学力向上研究校（校内寺子屋事業）による主体的に学習する態度の育成。</p> <p>②希望する進路を実現するために必要な学力の育成及び学習習慣の定着。</p> <p>ア 特別進学クラスの特色化の推進。</p>	<p>(1) -①東京都教育委員会の「学びの基盤」プロジェクト研究指定校の最終年度となった今年度は、各教科担当者が作成した、「『読解力』『自ら学ぶ力』シート」を教員相互に活用し、生徒の学ぶ意欲や基礎学力の向上に向けて取り組んだ。また、2学期には全員が研究授業を行い、略案ではあるが、全員が指導案を作成し、この時期を授業見学期間として相互に授業見学を行った。更に、若手教員の研究授業・研究協議を通して、エンカレッジスクールの特色を生かした授業改善に取り組んだ。</p> <p>①-ア 「学びの基盤」プロジェクトの公開授業における研究授業・研究協議を通して、「読解力」と「自ら学ぶ力」を育成する指導方法等について研究を進めた。</p> <p>①-イ 放課後学習に関して、校内寺子屋事業を活用し、国語・数学・英語の基礎学力向上を図った。学年団の協力で9割の出席率となった。</p> <p>②-ア 2年生の「特別進学クラス」において、成績の向上が顕著であった。普段の授業における取り組みが良好で、クラス全員が「学びに向かう」体制となった。次年度の希望調査では、「皆</p>

<p>イ 朝学習・朝読書の推進。</p> <p>③資格取得や各種コンクールへの参加。 ア スキルアップ推進校事業の有効活用。</p> <p>④一人1台端末の活用 ア Teams 活用やBYOD、CYOD 導入に対応した学習指導の推進。</p> <p>⑤観点別評価（3観点）の実施 ア 指導と評価の一体化を図る。 イ 第1・2学年における3観点評価実施。</p> <p>⑥エンカレッジスクールにおける教育課程編成の検討。</p>	<p>で高めあい、勉強に集中できる」等の意見が多くあった。</p> <p>②ーイ 今年度から、1年生は朝読書に特化した。遅刻の減少にはつながらなかったが、図書室の利用向上につながった。また、教科指導で図書室利用が増えた。</p> <p>③スキルアップ推進校の事業を活用し、英検講座（4級から準1級まで）を週に5講座開講し、28名の生徒が受講した。</p> <p>④デジタルサポーターの支援など受けながら、「Teams」による連絡事項の配信、日々の教育活動において、オンラインを効果的に活用する教科が増えた。</p> <p>⑤観点別評価導入2年目となり、各教科及び学校全体で共通理解を図った。次年度、全学年が観点別評価となるため更なるブラッシュアップが必要である。</p> <p>⑥3年生の自由選択及び学校設定科目について検討し、改善を図った。</p> <p>【自己評価 B】</p>
<p>（2）進路指導・生活指導</p> <p>①「A：挨拶 1日100回」「B：『美』『場』『服』制を整える』指導の徹底」「C：コミュニケーション 大事な話題は対面で」</p> <p>②問題行動・転退学者の減少と進学率の増加。</p> <p>③「進学応援型」の充実 ア 計画的なキャリア教育の推進。 イ 放課後や長期休業期間中の補習・講習の充実。</p> <p>④「Sport・Science Promotion Club」の指定（バドミントン部及びビームライフル部）を核とする部活動の活性化。</p> <p>⑤SC、YSW、学校医、関係機関等との連携とケース会議の充実。 ア 教育力向上を図るため、自立支援活動チームと通級学級コアグループとの連携及び活用の充実。 イ 中学校からの生徒情報共有シート等の活用と合理的配慮に基づいた指導の充実。</p>	<p>（2）ー①規律やルール、適正な行動が取れる生徒の育成を目指して、生活指導部、学年が連携して指導に当たった。服装、頭髪、化粧などの身だしなみについては、朝の立ち番、集会などで徹底した。</p> <p>②特別指導件数は昨年度より減少したが、近隣の施設利用のマナーについて更なる指導が必要である。</p> <p>③進路指導部・教科・学年が一体となり、一年間を通して進路に関して支援した。特に3学年担任団のきめ細かい指導があり、指定校推薦以外での進路決定が例年より多かった。</p> <p>④ビームライフル部は全国・関東大会出場、バドミントン部男子団体は、関東大会出場となった。バドミントン部は、運動部活動海外派遣研修事業において1月にフランスに派遣された。</p> <p>⑤スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、自立支援担当、特別支援コーディネーター等との連携を図り、個々の生徒の情報について共通理解を図り対応することが出来た。</p> <p>【自己評価 B】</p>
<p>（3）募集対策</p> <p>①学校の取組みに関する積極的な情報発信</p> <p>②中学生や保護者の視点での学校説明会、学校見学会、体験入学等の実施</p> <p>③中学校の教員、塾対象に本校（エンカレッジスクール）の特色について発信</p> <p>④グラウンド等の活用の充実を図り、地域と連携したイベントの展開</p>	<p>（3）ー①地域に信頼され、活気ある学校としていくことを目的に取り組んだ。HPは200回以上の更新を行った。</p> <p>②学校説明会では、今年度から教職員からの説明に加え、生徒会役員からの説明も行った。</p> <p>③夏季休業期間中に中学校、塾訪問を実施。また、近隣小学校のサマースクールに本校生徒が参加して学習支援を行った。更に、近隣中学校</p>

	<p>の生徒に本校バドミントン部員が技術指導を行うなど交流を深めた。</p> <p>④施設開放事業を再開し、テニスコートの開放を行った。</p> <p>【自己評価 B】</p>
<p>(4) 組織体制の強化と働き方改革</p> <p>①PDC Aサイクルに基づいた学校経営。</p> <p>②経営企画室と一体化した学校経営を目指し、経営企画室のさらなる経営参画の促進。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症の対応と教職員の健康管理の徹底を図る。</p> <p>④点検・環境整備・研修等を通して個人情報・情報セキュリティの適正管理を図る。</p> <p>⑤生徒・保護者・その他都民に対する親切かつ丁寧な接遇の実施。</p> <p>⑥教員との緊密な連携による効果的かつ正確な事務を遂行し、募集対策・入学者選抜の運営及び支援を行う。</p> <p>⑦育児休暇取得経験者等を講師とする子育て研修会をはじめとして、働き方改革研修会を開催。</p>	<p>(4) -①学期ごとに目標に向けた取組状況を確認し、課題の整理に務めた。</p> <p>②職員打ち合わせへの経営企画室からの参加、経営企画室打合せへの管理職複数参加、4者打合せを毎朝実施し、情報共有により課題への速やかな対応に務めた。</p> <p>③5類移行後も感染対策に留意し、教育活動を継続して行うことに務めた。</p> <p>④定期的な服務研修及び機会を捉えての周知により適正管理に務めた。</p> <p>⑤電話対応等、丁寧な対応に務めた。</p> <p>⑥インターネット出願2年目となり、選考委員会を中心に入学選抜業に取り組んだ。また、募集対策については、夏季休業中から平日学校見学会を実施し、応募倍率の維持を図った。</p> <p>⑦計画的な育児休暇取得者が複数名いるなど、ライフワークバランスの推進に務めた。</p> <p>【自己評価 B】</p>

(3) 数値目標				
項目	内容	目標値	今年度	達成度
1 学習指導	(1) 授業研究 (一人1回)、相互の授業参観 (一人3回以上)	100%	83%	B
	(2) 生徒による授業評価 (年2回以上実施)	年2回	1回	C
	(3) 校内寺子屋出席率 (基礎学力の定着)	100%	90%	A
	(4) 一人1台端末活用に向けた校内研修等	年3回	0回	D
	(5) 観点別評価に関する研修会等	年3回	8回	A
	(6) 長期休業中の補習・補講の実施	30講座以上	26講座	B
	(7) 図書貸出冊数 (図書館利用活性化)	3300冊以上	2781冊	B
	(8) 漢字検定・英語検定 (3級以上)	30名以上	9名	C
2 進路指導・生活指導	(1) 進路実現に向けたガイダンスや講演会	20回以上	47回	A
	(2) 進路決定率	90%以上	89.7%	A
	(3) 基本的生活習慣の確立 ①1日100回の挨拶 ②中途退学者・転学者数合計  ③年間のべ遅刻者数 ④特別指導件数	100% 各学年5名以内(全校15名以内) 2200名以内 20件以下	35% 23名 6267名 19件	C
	(4) 始業式・終業式で校歌斉唱	毎回	100%	A
3 心と体の健康	(1) 「Sport・Science Promotion Club」	関東大会・全国大会への出場	関東・全国大会出場	A
	(2) SC・YSWとの打合せ	月1回	月1回	A
4 募集対策	(1) ホームページ更新	200回以上	248回	A
	(2) 若鳩だより	5号以上	5号	A
	(3) 入選倍率	中進対1.4倍	1.32倍	A

		推薦 3.5 倍 前期 1.5 倍	3.35 倍 1.43 倍	
5 組織 体制	(1) PDCA サイクルによる学校運営の見直し	年 3 回	年 3 回	A
	(2) 月当たり時間外勤務 45 時間を超える教員	0 (ゼロ) 人	12 人	C
	(3) 年休 5 日以上取得	全教職員	96%	A
	(4) 一般需用費センター執行割合	60%以上	61.3%	A
(3) 次年度以降の課題		対応策		
<p>本校生徒は、「30 分授業による学び直し」、「2 人担任制による丁寧な指導」、「新しい施設」等に期待をしている。</p> <p>今年度、「基礎学力を付ける授業」に向けて、全教員で授業改善に取り組んできたが、今後は、基礎基本学習個別支援事業等による外部人材を更に活用し、授業についていけない生徒を一人でも減らしていくことと、自ら考える力を付けさせるために探究活動の充実を図ることが課題である。</p> <p>また、規律やルール、適正な行動が取れる生徒の育成に向け、学年と生活指導部が連携した指導体制を一層整え、社会生活の基盤となる生活習慣を確立させることが課題である。</p> <p>更に、地域から期待され、中学生、その保護者、教育関係者から「選ばれる東村山高等学校」を目指し、戦略的な募集対策を推進することが課題である。</p>		<p>①授業計画（教科横断的な取組を含む）・指導方法（UD・探究学習等）の更なる充実を図る。</p> <p>②学習習慣の定着を図る外部人材等を活用した放課後の学びの場の設定。</p> <p>③教科主任会・校内研修会を活用した授業改善に向けた研究の充実。</p> <p>④進路学習の充実とスキルアップ推進校事業を生かしたジョブキャンプ等への参加。</p> <p>⑤遅刻を減らし、規則正しい学校生活及び基本的な生活習慣の確立を図る生活指導の徹底。</p> <p>⑥SC・YSWとの連携を深め、組織的かつ課題発生時の迅速な対応ができる校内体制の構築。</p> <p>⑦中学生・保護者・中学校教員にエンカレッジスクールの特色について理解を深めていただき、ミスマッチのない学校選択となる学校紹介の更なる工夫。</p>		